

みんなの健康ラジオ

『こどもの難聴』

(2026年8月6日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜市立大学附属病院

塩野 理

難聴：聞こえにくいこと

- 健康診断でヘッドホンをつけ、聞こえたらボタンを押す検査が行われる
- 一般的に**30dB**という大きさの音が聞こえたら正常
- 聞こえないと何が困るのか → ことばが習得できない
- 小さな子供では、検査の意味が理解できないことやヘッドホンが合わないため、大人の検査はできない
- 大人と同じ検査ができるようになるのは、一般的に小学校に上がるくらいが目安
- 生まれてすぐ、入院中に行われる聴力のスクリーニング検査が普及し、自治体の補助も出るようになった
- 難聴があり、尿検査で先天性サイトメガロウィルス感染症が判明した場合、抗ウィルス薬で難聴の進行を抑えることが可能

新生児聴覚スクリーニング

- 出産後の入院中に行われる検査で、寝ている間にでき、身体的負担が少ない
- 生まれつき難聴がある（先天性難聴）お子さんは**1000人**のうち**1-2人**で、他の先天的な異常より頻度が高いため、行う意義が大きい
- 先天性サイトメガロウィルス感染症もその一つ
- 新生児聴覚スクリーニングは**2種類**
 - ①**A ABR**：35dBの音に反応があるか、脳波の検査
 - ②**OAE**：内耳機能の検査
- いずれの検査も「パス」「要精密検査」どちらかの結果が出る
- 「パス」しなかったから「難聴」では「ありません」

スクリーニング検査で要精査

- 「要精密検査」となった場合

先天性難聴：1000人のうち1-2人 それ以外は精密検査や今後の経過観察で難聴が否定されていくこととなる

- 神奈川県横浜市における要精密検査の流れ

二次検査医療機関または精密検査医療機関に紹介される

- ABRまたはASSRという検査を行う

いずれも脳波の検査だが、ASSRでは色々な周波数（高い音から低い音まで）を検査できる

他のこどもの聴力検査

- **BOA**：聴性行動反応聴力検査
太鼓や鈴などの楽器、ガラガラ、お母さんの声などを使って音を聞かせ、その反応を見る検査
- **COR**：条件詮索反応聴力検査
音が出た方向を見るとおもちゃに光が当たる、動くなどの条件を覚えさせ、その反応を見る検査
- 遊戯聴力検査
音が聞こえたらブロックを入れる、ボタンを押すなど音を使った遊びの反応を見る検査
- 本当に聞こえないお子さんを早く見つけ出し、適切な治療に結び付けることが大切！